

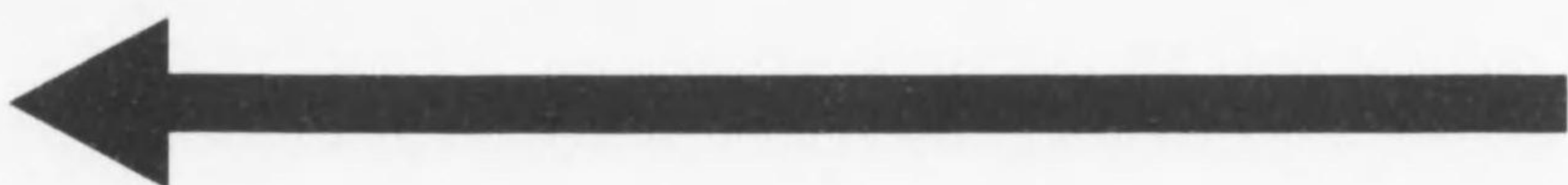
特255

2

×  
複写

祐德稻荷神社由緒記

始





命婦

蹟真公誠定臣大内院山花

天統神德

蹟真公彬直島鍋 爵子等二勳位二正



肥前 鹿島 祐徳稻荷神社由來記

當神社ハ佐賀縣藤津郡ノ中央古枝村石壁ノ山麓ニアリ  
山ハ峻巖巍乎遑業トシテ峙チ老松怪楓生ヒ繁リ秀靈ノ  
神氣鐘マルトコロ金殿朱閣藁ヲ聯ヌルモノハ本社ト攝  
社トノ殿樓ナリ先ツ高サ二丈餘ノ大華表ヲ仰キテ境内  
ニ入レバ明治三十八年以來鶴ノ孵化繁殖地トシテ有名  
ナル崖下ノ白鶴ハ頸ヲ延テ賽客ヲ迎フルカ如ク祭神ノ  
神徳ニアヤカリ年々生育増加セル埒内ノ猴ハ喜々トシ  
テ人ノ臻ルヲ喜フニ似タリ其他苑池ノ鯉群ハ潑漑トシ  
テ躍リ境内ノ風光實ニ明眉ニ四時ノ觀備ハラザルナシ  
宜ナル哉大正九年十一月 梨本宮兩殿下台臨ノ際本社  
ハ勿論攝末社ニ至ル迄御巡拜ノ後時餘ノ間境内ノ風光



ヲ賞シ給ヒシヤ

今左ニ當神社由緒ノ一端ヲ録ス

本社ハ京都花山院邸内奉祀ノ稻荷大神ノ分靈ニシテ花山院萬子媛ノ勸請スル所ナリ抑モ萬子媛ハ後陽成天皇ノ曾孫女ニシテ父ハ花山院定好公母ハ前關白信尙公ニ降嫁セラレタル後陽成天皇第三ノ皇女准后清子内親王ノ女ナリ年甫メテ二歳清子内親王養フテ子トナシタマヘリ幼ニシテ穎悟文學ヲ好ミ夙ニ賢明ノ聞ヘ高ク長スルニ及ンデ益々讀書文墨ニ親シミ齡三十有七尙ホ嫁セラレザリキ然ルニ肥前國鹿島ノ領主鍋島和泉守直朝公ハ智勇兼備ノ名將タルヲ聞キ始メテ婚ヲ結ブノ議成レリ父花山院定好公別ニ臨ミ宮城内御奉祀ノ稻荷大神ノ

神靈ヲ神鏡ニ奉遷シ萬子媛ニ授ケテ曰ク「卿身ヲ以テ此神靈ニ事ヘ以テ上寶祚ノ無窮ヲ祈リ下邦家ノ安泰ヲ願ヒ敢テ或ハ怠ルコトアル勿レ」ト寛文二年五月鹿島ニ下向シ鍋島直朝公ニ入嫁セラレヌ當時神令使モ亦隨從セシメラレシモノナリト云フ媛ハ天資溫厚風姿端正ニシテ威儀神ノ如ク德化領内ニ洽ク畔ヲ讓リテ耕スノ風アリシハ直朝公ノ德政ニヨルモノナリト云フト雖モ抑モ亦夫人内助ノ功與テ大ナリシ也爾來琴瑟相和シ二子ヲ舉ゲラル長ヲ文丸次ヲ式部ト云フ二子不幸ニシテ早世セラレヌ夫人深ク哀痛殆ンド寢食ヲ忘ル、ニ至ル一夕讖然トシテ大ニ悟ル所アリ以爲ラク人生ヲ悲觀スルハ是レ常人ノ事ナリ慈父ノ教ヘ給ヒシモ之ガ爲メノミ如



カズ身ヲ神佛ニ奉シ心ヲ千歳不磨ノ道ニ注ギ以テ悠遠ノ樂ヲ全フセンニハト乃チ漸ク隱栖ノ志アリ貞享四年地ヲ古田村（古田村ハ古枝村ノ舊稱）清淑ノ境ニ相シ殿宇ヲ建立シ以テ倉稻魂大神、大宮賣神、猿田彦神ノ神靈ヲ勸請シ躬モ亦居ヲ此ニ遷シテ寶祚ノ無窮國家ノ泰平ヲ祈ラル、コト二十有一年一日ノ如クナリキ寶永二年寶算八十有一山腹ノ巉巖ヲ鑿テ壽藏ヲ構造セシメ同年四月工成ルヤ此ニ安座シ堅ク戸ヲ鎖シテ千載不拔ノ祈願ヲ誓ヒ瞑目セララル諡シテ祐徳院殿實麟端顏大師ト號ス明治四年神佛混祀ヲ廢セラル、ヤ神號ヲ萬媛命ト追崇シ社殿ヲ石壁神社ト稱ス夫人ノ壽藏ニ隱レラレシヨリ其德ヲ仰慕シテ參拜スルモノ甚ダ多ク祭神ノ神德ト共ニ威

靈顯著ニシテ遠近ノ信徒年ヲ追テ増加セリ昔ハ社殿ノ修築修繕祭祀ノ經費等鹿島藩ノ補助ヲ仰ギシモ廢藩以來内外一切ノ經費悉ク自立ノ經濟トナレリ倉稻魂大神 又保食神、豊受姫神、大宜都比賣神、豊宇迦能賣神、等申シ衣食住ノ守リ神ニアラセラレ五穀ハ更ナリ魚類鳥獸蠶絲草木ニ至ルマデ大神ノ恩頼ニアラザルモノナシ猿田彦大神 猿田比古神又大土御祖神トモ云フ天孫降臨ノ片嚮導ノ任ニ當リ天孫ヲシテ日向高千穂櫛觸峰ニ啓行セシ神ナリ大宮賣大神 又天宇受賣命天鈿女命トモ云フ天照大神天岩屋ニ隱レ給ヒシトキ異様ノ裝ヲナシ岩屋ノ前ニ舞



ヒ給ヒ大神岩屋ヨリ出給フヤ御前ニ侍シ御心ヲ慰メ給  
フ又天孫降臨ノ井猿田彦命ヲ説テ嚮導ノ任ニ當ラシメ  
後伊勢ノ狹長田ノ五十鈴ノ川上ニ送り皇孫ノ朝廷ニ仕  
ヘ奉リ給ヘリ  
以上三柱ノ大神ハ伊勢ノ外宮ニ奉齋セラル、大神ト御  
同神ニアラセラル

附記 舊記ノ傳フル所ニヨレバ京都花山院邸内稻荷  
神社ハ延暦十三年花山院冬嗣公宗像三神ヲ邸内ニ奉  
祀シ後左大臣照宣公ニ至リ更ニ伏見稻荷大神ノ分靈  
ヲ合祀セルモノナリ伏見ハ大内ニ懸隔セルノ故ヲ以  
テ朝廷ノ御祈願所ニ定メラレ午ノ日毎ニ内侍所ヨリ  
御供物ノ典アリ左大臣家忠公ニ及ビ昔時花山院帝御

所ノ地廣袤二町餘アリシヲ悉ク家忠公ニ賜ハリ以テ  
稻荷大神ヲ奉祀セシメラル  
又傳フ命婦神ハ神令使ノ稱ニシテ 光格天皇天明年  
間禁中火ヲ失シ延焼シテ花山院内大臣ノ邸第ニ及ブ  
時ニ白衣ノ一隊忽然トシテ現ハレ敏活ニ屋上ヲ馳セ  
廻リテ防火ニカム爲ニサシモノ烈火モ暫時ニシテ鎮  
火セリ花山院公大ニ喜ビ之ヲ引見シテ厚ク勞シ何レ  
ノモノナリヤト問ハレケルニ一同平伏答ヘテ曰ク肥  
前國鹿島祐徳神社奉仕ノ者等ナリ偶々本邸ニ危難ア  
ルヲ知り微力ヲ致セシノミト公怪シミ且ツ悦バズシ  
テ曰ク本邸ハ物ノ數カハ何ゾ禁中ノ難ニ赴カザリシ  
ト一同恐縮對テ曰ク卑賤ノ躬禁庭ニ上ルヲ得ザリシ



ノミト言終テ形影消テ跡ナシ公大ニ之ヲ奇トシ私カ  
ニ之ヲ天聽ニ達ス是ニ於テ内大臣ヲシテ命婦ノ官位  
ヲ授ケラレ内大臣自ラ御前ニ於テ命婦ノ二字ヲ書シ  
テ贈與セラレタルモノ現ニ寶藏セラル (卷首參照)

年中祭日ノ概畧

- 一月 歲旦祭 (一日) 元始祭 (三日) 祈運祭 (七日)
- 二月 紀元節 (十一日) 祈年祭 (廿二日) 幣帛供進使參向
- 三月 初午祭
- 四月 春祭 (八日) 夜間金銀ノ玉換アリ
- 五月 石壁神社春祭 (十日)
- 八月 天長節祭 (卅一日)

- 九月 石壁神社秋祭 (十日) 相撲其他ノ餘興アリ
  - 十月 例祭 (十六、十七、十八日) 十六日ニ幣帛供進使參向
  - 十二月 新嘗祭 (八日) 幣帛供進使參向
  - 秋祭 (八日午后) 夜間齋火燒おひたきアリ
- 右ノ外毎月一日十五日ト午ノ日ニハ小祭執行



稻梁講社ノ事

稻梁講社ハ明治十七年三月ヲ以テ敬神篤志ノ人ニヨリ  
左記ノ趣旨規約ニ基キ組織サレシ結社ニシテ其範圍ハ  
佐賀縣ハ勿論長崎市佐世保市五島平戸ヲ始メ長崎縣下  
一圓ニ亘リ福岡熊本鹿兒島大分宮崎ノ各縣ヨリ山口縣  
下ニテハ下關市ニ幾多ノ講社ヲ有シ延テ香川縣下ノ高  
松市大阪市ニ及ビ總講社數壹千餘ニ達セリ左ニソノ趣  
意書並ニ規約ヲ掲グ

祐德稻荷神社稻梁講社大意

肥前國藤津郡鹿島鎮座  
倉稻魂大神ノ威德積年隆盛ヲ致スハ即チ攝社ニ祀ル石  
壁神ノ因故ニ胚胎ス此神ノ名一ニ祐德ト曰フ是ヲ以テ



本社ヲ創ヨリ祐德稻荷ノ神ト稱ス今茲信心篤志者ト協同シテ稻梁講社ヲ結ビ敬神愛國ノ至誠ヲ表シ延ヒテ神明ノ恩賴ニ浴シ社中各自ノ全家子々孫々永遠ニ幸福安寧ナランコトヲ祈ル而シテ其同社ノ交誼ニ於ルヤ誠實廉直ヲ以テ旨ト爲シ互ニ相親睦スル一家ノ如クシ吉凶慶弔スル所アル可シ上ハ皇上下ノ法憲ヲ遵奉シ下ハ各自ノ事業ヲ勉勵シ共ニ昭代ノ良民ト爲リテ萬國無比ノ國威ヲ擴張セン是レ其結社スル所以ノ大要ナリ今左ニ其方法ヲ掲ク

#### 稻梁講社規約

第一條 稻梁講社加入ノ人員靜寧幸福ノ爲年中毎日祈禱ヲナシ尙ホ四月八日十二月八日大祭典執行スベキ

#### 事

第二條 一組十名以上敬神ノ向ニ限リ講社ヲ結ビ社長一名副社長一名世話係等ヲ置キ各事務取行フ可キ事但シ役員ノ數ハ講社員ノ約一割タルベキコト

第三條 講社ヲ結ビ本社へ參詣ノ上加入申込ム時ハ更ニ入社式ノ祭典ヲ行ヒ祭主ヨリ其由ヲ奏シ社員ヲシテ拜禮セシメ入社ノ名簿ニ捺印セシメ社員章ヲ交付スヘキコト

第四條 講社ニ入ラント欲セバ先其地方ノ正副社長又ハ世話係ニ申込ムベシ社長ヨリハ該入社員ノ府縣國郡町村番地姓名ヲ詳記シ本社へ送付ス可キ事

第五條 各講社毎ニ名簿二冊宛ヲ製シ一部ハ本社へ納メ



一部ハ其講社へ供へ置ク事

第六條 社員參拜ノ節社務所へ社員章ヲ出サバ社殿ニ於テ神酒頂戴セシム可キ事

第七條 講社ノ協議ニ依リ日參月參春秋參詣等ヲ組立順番或ハ抽籤等ニテ參拜シ又ハ祭日（午ノ日又ハ八日）ノ寄會ヲ設ル等適宜タル可シ

第八條 崇敬者ノ請求ニ依リテハ本社ヨリ各地方へ出張シ臨時入社式ヲ執行シ或ハ神德ヲ講明スル等ノ事アル可シ

第九條 社中ノ者ハ印付ノ提燈ヲ製シ相用フ勝手タル可キ事

祐徳稻荷神社

稻梁講本社



昭和三年十一月二十日印刷  
昭和三年十一月二十八日發行

(非賣品)

編輯者

佐賀縣藤津郡古枝村乙千八百五十五番地

縣社祐德稻荷神社々務所

佐賀縣藤津郡鹿島町大字高津原五百二十番地

右代表者

勝屋弘義

佐賀縣藤津郡古枝村乙千八百五十五番地

發行所

縣社祐德稻荷神社々務所

佐賀縣藤津郡鹿島町大字高津原三千九百十九番地

印刷者

田中德太郎

佐賀縣藤津郡鹿島町大字高津原三千九百十九番地

印刷所

田中活版所



終

